

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 麴町学園女子中学校高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒102-0083

東京都千代田区麴町3-8

E-mail momoko.nishijima@kojimachi.ed.jp

Website http://www.kojimachi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子            名 女子 約 500 名 合計 約 500 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳 ~ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「豊かな人生を自らデザインできる自立した女性の育成」を教育ビジョンとして掲げ、ESD をキャリア教育の一環ととらえ、ESD の実践を通して持続可能な社会の市民としての態度を育成し、知識や技能を身につけさせ、グローバル社会で活躍できる能力を引き出すことを目標とした。

具体的には、①日本の自然・文化の理解、②異文化理解、③教科横断的学習「みらい科」の取り組みを行った。

### ①日本の自然・文化の理解

本校では中学生に華道、茶道の授業、高校生には文楽や歌舞伎の鑑賞行事を行っている。日本の伝統文化を理解し尊重する態度を育成している。今年度においても生徒はこれらの授業や行事を通して、日本の伝統文化に対する造詣を深め、また学外に作品を発信するなどの活動を行った。

## ②異文化理解

従来から実施してきたニュージーランドでの語学研修に加え、同じくニュージーランドでの3か月留学の参加者が増加している。また、今年度より中学2年生でアイルランド修学旅行を実施した。滞在中、本校の生徒による日本文化の紹介（折り紙や英語の名前を漢字で書いてあげるパフォーマンス）、アイルランドの生徒によるアイルランドダンスや音楽の披露を通して、双方の文化交流を行った。また、本校にもスロバキアからの年間留学生の他、アイルランドからの短期留学生の受け入れを行い、日常生活の様々な場面での異文化理解が促進された。

## ③教科横断的学習「みらい科」の取り組み

中学生を対象に開講されている「みらい科」では、中学1年生は麴町周辺の生物多様性の調査、中学2年生では平和学習、中学3年生では途上国の女子教育といったテーマを設け、専門家による講演や生徒による調べ学習などを行った。学習の成果は学内外に発信した。中学1年生の活動は千代田区の「生物多様性大賞」に入賞した。

①中学2年生の華道の授業の様子



②ニュージーランド語学研修の様子



②中学2年生アイルランド修学旅行の様子



③中学1年生生物多様性フィールドワークの様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 ねばり強く取り組む態度 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

皇居の自然に関する書籍、国際 NGO Plan JAPAN 作成のパンフレット、Plan JAPAN 作成の web 動画「girl rising」など
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

中学3学年に総合的な学習の時間のような役割をもった「みらい科」を設置した。該当学年の教員間で情報を交換し、共通の教材を用いて学習プログラムを構築した。また、従来から行ってきた海外修学旅行や希望者参加の海外研修も、単なる見学や体験といったものから調査、実習の意味合いの濃いものに発展させていっている。中学1年で学園周辺の身近な自然環境（think globally, act locally）、中学2年でアジアを中心とした戦争と平和、中学3年で途上国の貧困とジェンダー差別（女性の人権）というように、生徒の発達にともなって視野を広げるような学習プログラムづくりを意識している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

海外研修や留学生の受け入れ、ユネスコスクールとしての各種手続き等は「国際教育推進室」（約10名）という役職の教員で運営している。教科横断的学習の「みらい科」については「みらい科委員会」（各学年1名）という組織で運営している。どちらも相互にリソースを共有し合い、ユネスコスクールとしての各種学習プログラムの発展を目指している。「みらい科」の年間の取り組みは担当者から年度末に全教員に向けて報告がなされ、次年度の計画について意見を取り入れることにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価として、教科横断的学習の「みらい科」では年度末に各学年の担当教員から全教員に向けて活動報告がなされている。年度当初に年間で実施する各プログラムにおける学習目標を設定し、その到達度を合わせて報告している。外部については、今年度は生徒の活動を学外のコンペティションに応募してきたが、その中で千代田区の「生物多様性大賞」の「入賞」を獲得した。今後も継続的に学園周辺の環境保全について学び、貢献できるような学習プログラムを構築していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校のホームページや facebook での活動内容や成果の発信を主に行った。中学 1 年生の環境学習については、その学習成果物を千代田区の「環境作品展」に出展した。また、千代田区の生物多様性に関する活動に対して表彰される「生物多様性大賞」に応募し、「入賞」を受賞した。受賞に当たっては中学 1 年生という低学年から取り組んでいるという点を評価された。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

中学 1 年生の環境学習では千代田区役所、明治大学農学部倉本教授、NPO 東京シティガイドクラブと連携して展開した。中学 2 年生の平和学習では東京大空襲戦災資料センターから講師を派遣していただいた。中学 3 年生の途上国の女子教育の学習については、国際 NGO Plan JAPAN から講師や教材の提供を受けたほか、アフガニスタンの女子教育についての研究を行っているお茶の水女子大の紹介でアフガニスタンからの女子留学生の講演を実現することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

年度末に韓国のユネスコスクールの教員研修団を受け入れた。本校の生徒の中には韓国の文化に高い関心を持っている生徒が多く、実際に韓国の先生方による授業を受けて生徒には貴重な経験となった。国内のユネスコスクールとは現在交流を持っていないが、今後の課題として前向きに検討している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールに加盟して初年度であったが、教員の中にユネスコスクールとしての意識が芽生えているような感触がある。学内外への配布物（学校説明会のチラシなど）にユネスコスクールのロゴマークを入れてアピールしている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度は「みらい科」を高校 2 年生まで拡大して開講する。グローバル教育の要素にキャリア教育の要素を加え、グローバル社会で生き抜くコンピテンシーの育成により力をいれて展開する。海外研修においても、3 か月留学の対象を拡大し、参加者を増加させる計画である。生徒が異文化に触れる機会を増やし、様々なバックグラウンドをもつ人々とのコミュニケーションを深めて、生徒一人一人が自分の生きる将来の展望をもち、そこで必要となる能力や態度について養うことを目標としている。